

八 劔 神 社 算 額 奉 納 口 上

氏子総代各位から頂きました質問を中心にまとめたものです。

■算額の名称は「時空間の対称性が自然法則をつくる」です。 → 時空間とは？

いまここに静かに留まっているように見える空間も、遠くから見れば地球の自転と公転に伴って動いています。このように、空間の中で時間とともに演じられる森羅万象の場を時空間といいます。

■門前払いとは？

我が国は時代が安定期に入ると権威主義が高まり、他の要因も相まって日本的停滞を迎えます。私のような一編の論文もない人物が「時間の一方性の条件を用いないアインシュタインの論法には疑問がある」などと大それたことを言いますと、確立された権威にそむく論文として端から排除されて、査読もされずに突き返されることとなります。それに引き比べ、権威といえども鋭意改革前進してきた、西洋恐るべしです。

■算額奉納の趣旨

▪ 氏神への感謝とお礼

「時空間の対称性が変換不変量（互いに立場を入替えても変わらない形や量）を生み、その不変量から自然法則がつくられる」という天然の機序に迫ることができました。とくに子供にも納得のいく「平面の表と裏は区別がない」という平凡な対称性に着目し、時間の一方性と空間の等方性が平面の表裏対称性に反映される幾何学的な道筋を見つけ、さらに西欧自然科学の石柱であるユークリッド幾何学、ニュートン力学、および特殊相対論に共通する淵源が、時空間の対称性にあることを明らかにしました。明治文明開化以来の借り物の科学に、いささかのお返しができたと思います。

▪ 神社の品格

江戸時代以降、全国の有力社寺には算額の絵馬が奉納され、その収録本も出版されました。現存または本に残るものが二千数百面あります。本算額は、主に図形の問題を解いた伝統を広げ、対称性を扱う数学により西欧自然科学の土台を革新したものであり、室町時代より諏訪湖水結時の御渡り記帳を続ける、八劔神社の文化財としてもよく耐えうるものと信じます。

▪ 氏子として先祖に報告

祖父藤森今朝平の縁戚には、八劔神社の御昇格記念碑に揮毫した藤森清一郎（諏訪市長・従弟）、玉垣の石柵（いずれも大型）に名を刻む藤森安五郎（末弟）、藤森新六（甥）、藤森藤一郎（継嗣）らがおりまして、因縁を感じます。

■地域一体性の心柱^{しんはしら}

宗派ごとの寺院とは違い、地域一体性の心柱として、神社の受継ぐ精神的・文化的伝統に敬意を表わすものであります。